

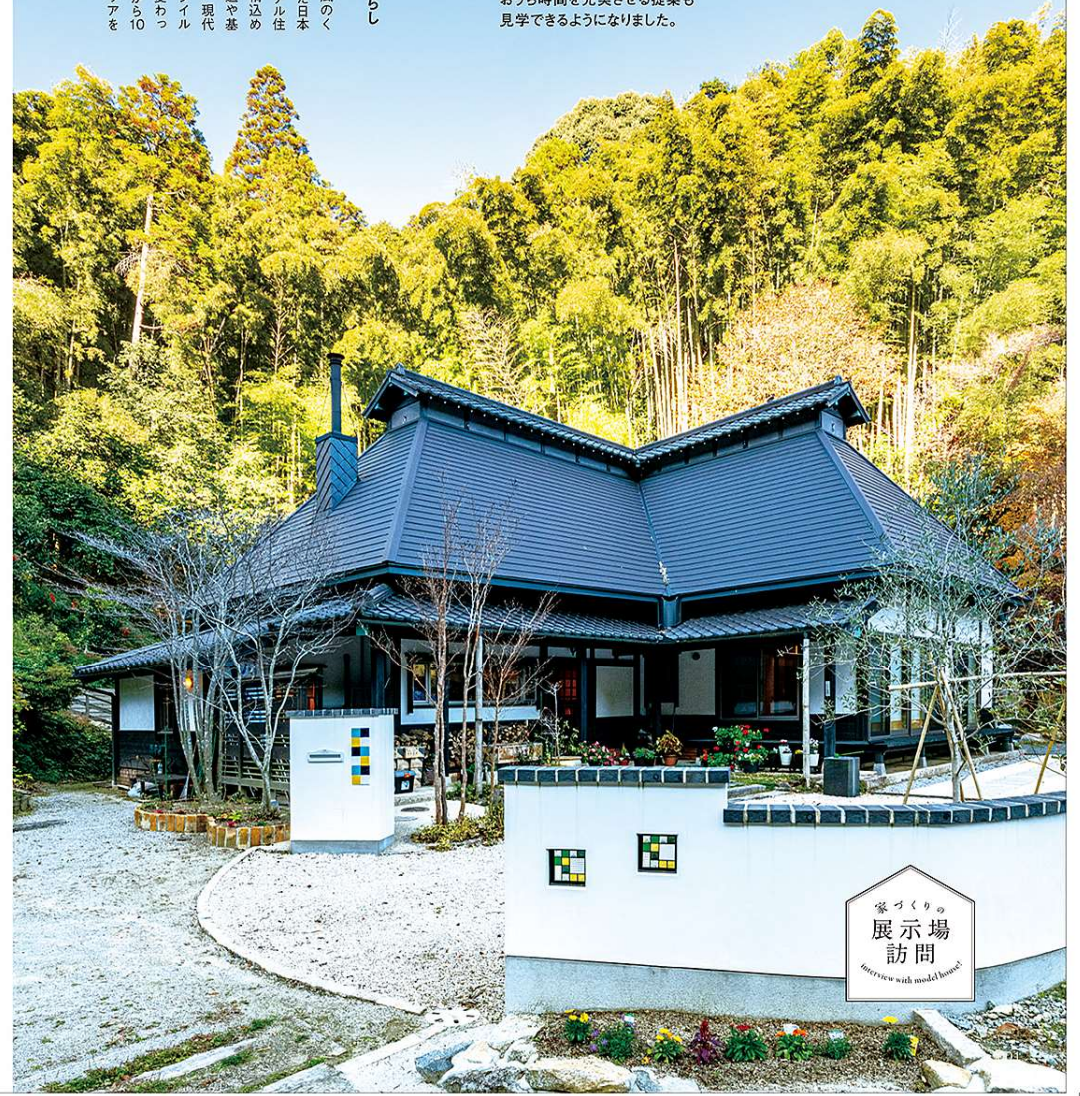
モデルハウス『風のくら』

土間リビングやタイルデッキでおうち時間をもっと豊かに

古民家再生モデル住宅『風のくら』のエクステリアがリニューアル。ボーダーガーデンや多目的スペースなど、おうち時間を充実させる提案も見学できるようになりました。

庭仕事に「ティータム」オープンガーデンのある暮らし

筑紫野市の山間にある「風のくら」は、明治初期に建てられた日本家屋をリノベーションしたモデル住宅。かつて職人によって丹精込めて建てられた木の家は、構造や基本的な間取りはそのままだが、現代の匠の技で新たなライフスタイルを提案する空間へと生まれ変わっている。そのリノベーションから10年が経ち、今回はエクステリアを



リニューアル。敷地を囲んでいた古い垣根と純和風の植栽に代えて、デザインガラスをはめ込んだ西洋漆喰の塀で囲い、ガーデニングを楽しむスペースを確保。庭砂利のアプローチの奥には天然石と洗い出しの通路を設け、パラソルとガーデンセットを置いて庭仕事の合間に「ティータム」を楽しめるようにした。

建物の裏手にあったウッドデッキは天然石のタイル張りにより、裏山の自然と調和するように石積みと木塀で囲まれたスペースは、バーベキューや創作活動、お客様のおもてなしなど多目的に使えよう。一室内に人を招き入れるのははばかれる時もオープンガーデンがあれば便利。家の中にいながら外を感じられるような小さな箱庭的な場所であれば生活がぐんと豊かになるのではないだろうか。私たちは建物だけでなくエクステリアもトータルで、職人の手によるナチュラルな装飾を提案したいのです。（ハウスランド社代表・三上信比古さん）



左上、掘りごたつのある縁の間。床は芽造りの杉の無垢材で壁は西洋漆喰。縁台風のテレビボードや釣り棚はすべてオリジナルで造り出したもの。／右上、古民家の裏山を囲むレンガ塀にリノベーション。土塀が立たぬよう床はセラコタイル張りに。薪ストーブも置ける冬の家しかも広がる。／右、古民家裏手にある蔵はタイルのショールーム。すぐそばに鉄平石を敷き、周囲を木塀で囲って多目的なスペースをつかった